

様式1 **令和7年度 清瀬市立清明小学校 学校評価計画**

学校の教育目標	明るく豊かな心を持ち 進んで学ぶ児童の育成 ○よく見つめよく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が笑顔になれる わたしたちの学校 1 子供一人一人が自分らしさを生かして、成長できる学校 2 教職員の個性や能力が発揮され、やりがいと誇りをもてる学校 3 「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者や地域と協働して子供を育てる学校	[清瀬小学校の特色ある教育活動] ユネスコスクール加盟校としてESD(education for sustainable development) 持続可能な社会を構築する担い 手を育む教育を実践する。そのために、「環境学習」「伝統文化体験」を核に地域学習材を生かしながら、体験型探究学習を通して、何十年後先も地域を愛し、地域発展のために生かす力と予測困難な社会を生き抜くための知識と知恵、判断力を育む。また、多面的、総合的に考える力や生き抜く力を養うことを目指す。 ○東京都教科担任制(理科)加配校 (1)教科によって指導する教師が変わり、より専門性を発揮した授業を展開 (2)学年で教科の交換授業の実施 (3)算数科は、全学年で少人数指導ならびに発達段階に応じた習熟度別学習指導の実施 ○ESD(持続可能な社会に貢献する教育)推進 (1)河川教育基金助成事業校として柳瀬川流域を活用した環境学習の実施 (2)ユネスコスクールSDGアンプトプロジェクト校として地域の伝統文化学習の実施 ○コミュニティ・スクール事業開始 (1)学校運営協議会を核に地域連携の強化を推進
目指す児童・生徒像	1 学習の基礎基本を身に付け、主体的に学び、自分の思いや考えを伝えられる子供 2 自分も相手も大切にできる気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供 3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供 4 すすんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な体をつくらうとする子供 5 何ごとにもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子供 6 地域の一員であるという自覚をもって行動する子供	
目指す教師像	教育公務員としての自覚をもち、公正・誠実・謙虚な態度で信頼される言動ができ、常に児童と共に歩み、共学、共働、共遊で人間関係を深め、児童理解に努めることができる教職員。	

前年度までの学校経営上の成果と課題

・地域学習材を活用した環境学習や伝統文化体験学習を全学年で実施することができた。今後、探究型体験学習をさらに充実させ、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を向上させていく。
 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着は前年度比プラス5%を達成した。さらなる学力向上に向け、子供たちに学ぶ喜び、学ぶ大切さを実感できるような教育活動に取り組むため、日常の授業改善や学校全体で組織的に指導を行える体制づくりに取り組む。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)		成果指標(評価基準)	
学力の向上	学習の基礎基本を身に付け主体的・対話的な深い学びができ、自分の思いや考えを伝えられる児童の育成	身に付けさせる力を明確にした意図的・計画的な学習指導を実施する。 児童の主体的・対話的な学びを大切にしたい指導を行う。	毎時間あてを明確に示したり、具体物の提示、ICT機器を活用したりして、分かりやすい授業を実施する。 話し合い活動を取り入れるなど、児童の実態に沿った指導方法の工夫改善を行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。	4 3 2 1	全学年全学年級で実施 実施率80%以上 実施率60%以上 実施率60%未満	4 3 2 1	単元テストで、85%以上が70点以上 単元テストで、70~85%が70点以上 単元テストで、55~69%が70点以上 単元テストで、55%未満が70点以上 児童の自己評価で、満足度90%以上 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 児童の自己評価で、満足度60%未満
豊かな心の育成	自分も相手も大切にできる気持ちを言葉や態度で表すことができる児童の育成	人と人との関わり合いを大切に、温かい言動がとれる児童を育成する。 いじめ未解決ゼロの学校にする。また、いじめの未然防止対策を強化する。	自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。 いじめ調査を定期的に実施し、実態を把握して早期発見・早期対応するとともに、未然防止のための指導を行う。	4 3 2 1	教職員の取組評価がA実施率90%以上 教職員の取組評価がB実施率75%以上 教職員の取組評価がC実施率60%以上 教職員の取組評価がD実施率60%未満 実施回数年間8回以上かつ未解決0 実施回数年間4回以上かつ未解決10%未満 実施回数年間2回以上かつ未解決50%未満 実施回数年間2回未満かつ未解決有	4 3 2 1	児童の自己評価で、満足度90%以上 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 児童の自己評価で、満足度60%未満 児童の満足度の評価A(児童・生徒の80%以上) 児童の満足度の評価B(児童・生徒の50%以上~80%未満) 児童の満足度の評価C(児童・生徒の30%以上~50%未満) 児童の満足度の評価D(児童・生徒の30%未満)
健やかな体の育成	すすんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康体を作ろうとする子供の育成	健康学習や食育を推進し、よりよい食習慣、生活習慣の確立をする。 すすんで体を動かす、健康でねばり強い児童を育成する。	養護教諭と連携して、健康・保健学習を年間4回以上実施する。また、栄養士と連携して毎日の給食指導や食に関する指導計画の実施を通して、正しい食習慣を確立する。 体育科の授業を始め、新体力テストの結果も参考にしながら指導の改善を図る。また、学校だよりで運動の日常化と生活習慣の改善について掲載する。	4 3 2 1	教職員の取組評価がA実施率90%以上 教職員の取組評価がB実施率75%以上 教職員の取組評価がC実施率60%以上 教職員の取組評価がD実施率60%未満 教員の自己評価で90%以上 教員の自己評価で80%以上 教員の自己評価で60%以上 教員の自己評価で60%未満	4 3 2 1	保護者の満足度が80%以上 保護者の満足度が70%以上 保護者の満足度が60%以上 保護者の満足度が60%未満 保護者の満足度が80%以上 保護者の満足度が70%以上 保護者の満足度が60%以上 保護者の満足度が60%未満
個に応じた支援	障害のある児童・生徒や不登校の児童・生徒など、様々な支援を必要としている児童・生徒に対する組織的な対応	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の工夫・改善に取り組む。 誰一人取り残さない指導を行うため、特別支援教育担当教員と連携して、教育活動の充実に努める。	全教職員で学習環境づくりの情報共有を学期に1回以上行う。 特別支援教育担当教員と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報を共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。※交流及び共同学習の実施	4 3 2 1	情報共有を年間6回実施 情報共有を年間5回実施 情報共有を年間4回実施 情報共有を年間3回実施 教員の自己評価で90%以上 教員の自己評価で80%以上 教員の自己評価で60%以上 教員の自己評価で60%未満	4 3 2 1	教職員の達成度の評価A 教職員の達成度の評価B 教職員の達成度の評価C 教職員の達成度の評価D 保護者の満足度が80%以上 保護者の満足度が70%以上 保護者の満足度が60%以上 保護者の満足度が60%未満
本校の特色	地域と一員であるという自覚をもって行動する児童の育成	保護者や地域の力を活用した指導を充実させ、児童と地域の方との交流を促進する。 保・幼・小・中連携教育、コミュニティ・スクールの推進	「環境教育」「伝統文化」を核に地域学習材を生かした体験型探究学習を通して「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」等を育む。 保・幼・小・中連携教育に向け、特別活動や行事等を中心に保・幼・小・中の系統性、連続性を踏まえた取組を実施する。	4 3 2 1	教職員の取組評価がA実施率90%以上 教職員の取組評価がB実施率75%以上 教職員の取組評価がC実施率60%以上 教職員の取組評価がD実施率60%未満 教職員の取組評価がA実施率90%以上 教職員の取組評価がB実施率75%以上 教職員の取組評価がC実施率60%以上 教職員の取組評価がD実施率60%未満	4 3 2 1	教職員の達成度の評価A 教職員の達成度の評価B 教職員の達成度の評価C 教職員の達成度の評価D 児童の自己評価で、満足度90%以上 児童の自己評価で、満足度75%以上90%未満 児童の自己評価で、満足度60%以上75%未満 児童の自己評価で、満足度60%未満